

第16回 元気が出る森松展迫る!!



【テーマ】
Change the Future
～発見はいつもここから～

【開催日時】
2008年10月2日(木)～3日(金)
< 9:00～17:00 >

【場所】
弊社本社ビル5F
名古屋市南区丹後通5丁目18番地
TEL 052-612-8831 FAX 052-612-8885

事前にご案内しているFAXに来場日時を返信して頂ければ
担当の営業・アシスタントが対応させていただきます。

「iPhoneを使いたいなら」

社長 森 直樹

早いもので今年もあと3ヶ月となりましたが、まだまだ夏の暑さが残っているような天気です。そんな中、恒例の森松展もあとわずかに迫り、最終の準備段階に入っております。

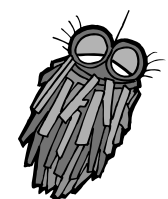
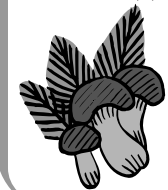
先日、携帯電話をiPhoneに変更しました。世間では日本の携帯と比較して、「着った」が無い・絵文字が無い・赤外線通信が使えない・おサイフケータイが使えない・カメラが130万画素しかない・バッテリー交換ができない(メーカー交換になります)と、「比較」すると前評判のわりにはたいそう多量なもので聞かされるかもしれません。もちろんワンセグもありません。しかし、一度触ってみるとその操作感の良さやシンプル直感的な画面は日本の携帯には無い良さがあります。また文字のフォント(書体)が非常にキレイで、これだけでも高級かつ高品質と思わされます。結局、これは電話付きパソコンと考えて使った方がわかりやすいのかもしれない。付属してない機能はソフトをダウンロードすることで補えます。つまり個々に合わせた仕様に出来るわけです。(それでも前述の機能は追加できませんか)

こうして考えると、ありとあらゆる機能の付いた至れり尽くせり(足し算)の日本の携帯と、最低限、基本的な機能さえあれば十分(引き算)で個人の好みに合わせて拡張できるiPhoneとでは根本的な発想が全く違うといえるようになります。根本的な発想、つまり「携帯電話はどのようなべきか」という認識が足し算と引き算へ大きく違っているように感じます。

こうして考えると、日本市場の特殊性を感じると共に、だからといって日本ならではのより高機能・高品質の製品が生み出されるということがよく分かります。3年後には世界中の携帯に「着った」赤外線「ワンセグ」などの機能が付いてくるかも。

naoki@morimatsu.net

25日(土)	24日(金)	15日(水)	13日(日)	11日(土)	6日(月)	4日(土)	3日(金)	2日(木)	2008年 10月
第四土曜日休み 加藤雅昭さん誕生日 経営会議 15時30分～16時30分	CSS向上会議 14時10分～15時00分 生産会議 12時00分～13時00分	中文役員会	体育の日	第二土曜日休み	誕生日会(9・10月生まれの方) 倪さん帰国	第一土曜日休み	呉社長夫妻帰国	第16回元気が出る森松展	の予定



『中秋節』

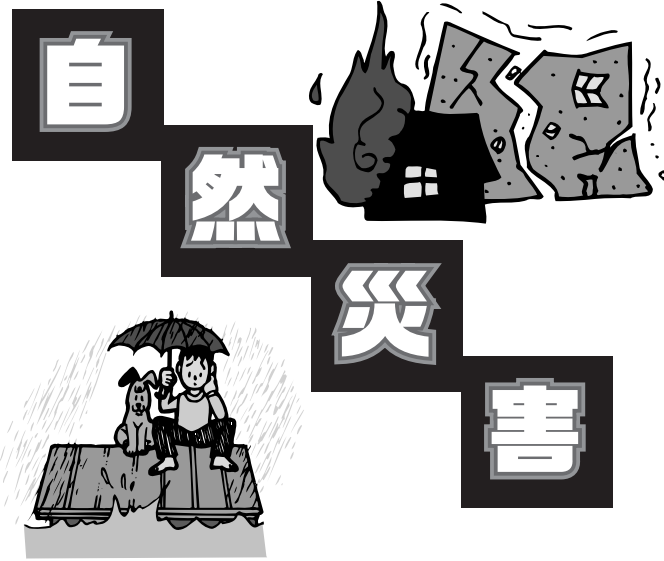
李 慧(東京オフィス)

今年9月14日が旧暦の8月15日です。旧暦の8月15日は中秋節と呼び、中国では春節に次ぐ二大イベントとして、今も根強く残っています。旧暦の8月15日は暦では秋のちょうど真ん中にあたるために、「中秋」もしくは「仲秋」と呼びます。この風習がいつから始まったかは諸説があり、少なくとも隋・唐の時代からあることは間違いないと言われています。農耕民族であった古代中国の人達にとって、秋は収穫の時期です。収穫をもたらしてくれた神様に感謝する意味と収穫の喜びをこめて、この美しい月を拝む習慣はかなり以前からあります。さらに秋になると、秋雨によって空気中の埃が洗われる為、空気が澄み、月が大変美しく見えます。時代が経過するに従って、この風習は宗教的な意味合いから月を鑑賞するというイベントになっていきます。

月にまつわる神話は中国にも沢山あります。「嫦娥奔月」・「玉兔搗薬」・「呉剛伐桂」など。日本人にとっては、月にウサギがいるという話はなにかと馴染み深いと思われれますが、実は古代中国の戦国時代以前はカエル(ガマガエル)が月にいたと言われていました。「嫦娥奔月」は嫦娥という美しい女性が、月でガマガエルになつた神話です。その後、漢の時代になるとウサギも登場し、この神話が、ウサギが月で薬草をつくつたという話「玉兔搗薬」に。その結果、月の中にウサギとカエルがいることになりました。漢から晋にかけて、月の中に大きなキンモクセイの木があるとされるようになり、このキンモクセイは大きいだけでなく、切り倒そうと斧を入れても、すぐにその傷を回復させるような強い回復力があると言われ、このエピソードが「呉剛伐桂」などの神話に残っています。いずれにしても、月にまつわる伝説、神話は数多く残っています。この様な神話から古代人のロマンが感じられます。中国語の勉強に伝説・神話から入るのもお勧めいたします。

月餅は、非常に縁起がよい食べ物象徴です。日本では団子ですが、中国では月餅です。皆さんは幾度か食べた事があるかと思えます。食べた事がない人はデザート等へ行けば入手出来ますので一度は食べて下さい。お勧めします。「中秋節」では、中国でも家族が集まって、月を鑑賞しながら、月餅をみんなで食べるものが習慣です。家庭の中では、年長者が月餅を家族の人数分に切り、一人二切れずつ食べます。もし、家族の内に誰かがその家族団圓の席にいないければ、その人の分は残しておき、家族全員が月餅を食べられるようにします。私は今年の中秋節も実家に帰れないのですが、きっと毎年のように両親が私の分を残してくれていると思います。(里帰りの際に冷凍庫の中に私の分が保存されていました。離れていても感謝の気持は忘れてはいけません)私も日本の新宿にある中国店で買った月餅を家族の人数に切り、月を見ながら(ウサギが出るかな)旦那と二階に食べたいと思います。きっと皆さんにお会いする頃には月餅を食べた丸くなった私を、月の様な顔「を見る事が出来ると思います。月餅も好きですが団子も好きです。そして、私を見守ってくれる方々に感謝いたします。





特に今年は異常気象、局地的豪雨など怖い思いをさせられ、いよいよ常にある気象の異常の観を呈してきました。

自然災害の経験という、私は阪神大震災を神戸にて経験しました。当時、2階建て木造アパートの2階に下宿していましたが、1階だとどうなっていたかわかりません。睡眠中に突然のこと。最初はトラックが下宿先に突っ込んできたと思い、あー、新しい下宿先を探さねば...と思うのも一瞬、横揺れが始まりました。テーブルにしがみつきのまま、ようやくこれは地震だと認識した次第です。揺れがおさまり窓を開けると1階の景色、2階建てアパートが1階建てになっていたのです。次に部屋のドアから他の下宿人に大丈夫ですか、と声をかけると、一斉に全員の声が返ってきました。外へ出る手段は私の窓のみ。全員がそこから脱出し方々の知り合いのもとへ向かいました。私も鉄筋マンションの先輩のもとへ行こうと顔をあげ町を見渡すと、火こ

そまだ出ていませんでしたがまるで戦争中の空襲にあったようなありさまに変貌しておりました。急に恐ろしくなり自然と小走りに向かっていました。途中、私が照らしていたキャンプ用ヘッドライトが目に入ったので、母親らしきかたから声をかけられ、女の子が埋まっているのです。助けて下さいというのです。瓦を一枚一枚どかしていくと、白い手が見え、彼女は助かりました。ようやく先輩のマンションへ到着し互いの無事を確認したのち、後輩や先輩など下宿仲間を軒一軒まわることになり、無事を確認していきました。途中、なんとも言えない声、空気がありました。我々にはどうしようもなく頭をさげたま次の目的地へ向かいました。

さらに自然災害といえ、今年、大阪の実家も床上浸水に遭い、両親の仕事場の1階が水びたしになりました。幸い、ご近所の方の援助も有り、被害は最小に食い止められたようです。それまで警察・消防・役所などに電話をしたのですが、他の地域の救援で手が回らないと断られたそうです。その日、新聞記者が現場写真をとりに来たようですが、残念ながら他の現場写真が採用され翌日の新聞には載りませんでした。また、行政の人間が被害状況を聞きに来たようです。母親の説得も有り、本来自分で調達するはずの土嚢が翌日運ばれてきたようです。

自然災害は当然これからも経験するだろうとは思いますが、肝心なのは、自助です。次は隣助でご近所様からの援助、最後に公助らしいですが、期待できるものではありません。阪神大震災の際は、数日後に下宿先を後にして、阪急電車の線路を廃線ハイクさながらに電車が来ている駅まで延々と歩き、ようやく実家まで帰っていききました。この経験は思い出ではなく、今一度、緊急対策品・行動予定を見直そうと思っております。

最後になりましたが、一身上の都合により、9月いっぱいまで退社することになりました。これまで皆様から多くのご指導ご鞭撻を頂きました。ご迷惑も多々お掛けしたかと思いますが、色々とお世話になり誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

会社のさらなる発展と、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

堀江辰造 (東京オフィス)

今回の北京オリンピックで一番印象に残ったのは、女子ソフトボール決勝戦(日本対アメリカ)でした。視聴率も30%と競技の放送では最高だったそうです。自身もソフトボールを地元でやっているせいもあり、予選から良く観ていました。次予選でアメリカにコールド負けした時は、やはりアメリカには勝てないなと思いましたが、よくあそこまで盛り返したと思います。何と言つてもすごいのは3試合連続の上野選手ですが、守備も打撃もすごかった。3塁ライナーを捕った廣瀬選手・ホームランを打った山田選手、通常ソフトボールの場合三塁手はかなり前の方で守る為、ライナー性の当りに対しては瞬時にグロブが出ないと大怪我をします。私ならば、逃げます。彼女の場合はたまたまグロブに入ったというが、勝つことへの執念を感じました。

また、アメリカのピッチャー、オスターマンの投球フォームの癖を見抜いていたそうです。ライズボールを投げる時は、後ろにまわした腕が肩より上がるのだそうです。浮き上がるライズボールか、沈むボールかを見破り、ベンチから「上」「下」と合図を送っていたそうです。こんな冷静な分析もあつての勝利だと思いました。でも上だ、下だと言われて打てるのはやはりすごいです。というのはソフトボールの場合、ピッチャーズマウンドからホームベースまでの距離が野球より5mほど短い為、上野選手の最速119km/hの球速だと、野球の場合に比べると160km/hぐらいの実感があるそうです。そんな球速のレベルを「上だ・下だ」と言われてもなかなか打てるものではないと思います。

残念ながら次回オリンピックよりなくなってしまう女子ソフトボールですが、いつかまた、オリンピック競技に取り入れられる時を願っています。表彰後に、2016とボールで描き「バックソフトボール」とアピールしていたのが印象的でした。

『感動をありがとう!』

伊藤雅典 (製造部)



毎年恒例の子供の夏休みの宿題に、思い出を記入するページがあるのですが、毎年行くところが同じ(ブル・実家・夏祭り・下水道科学館等)、どこに行きたい?と聞くと次女が「お父さんの会社」というので、仕事の問合せがらに子供と一緒に出勤。会社に着いて仕事をこなす時、次女から、「小さいのは(ベビーホーキ)と質問され、以前にも子供と一緒に来た際、特販部の部屋から出てすぐの所に、ほうきと塵取りがあるので、仕事の邪魔にならないようにと掃除をしていました。その為、今回も前回と同様にほうきと塵取りを持って掃除をし、「ここにはいろんな道具があつて楽しい」と私の机に近づき、「ここは大変だ」といって、「じゃあ、あつちいって」と追い払われ、普段から身の回りを片付けていない事を子供からも注意を受ける羽目に!そして、仕事を終え帰宅後に思い出のページに「お父さんの会社に行つておそうじをしたよ。いろんな道具があつて楽しかった。私せんようのそうじ道具もあつて、きれいになったよ」と書いてありました。

夏休みが終わり、宿題を提出して友達にどこ行つたと聞かれたら「お父さんの会社」と言ったら、逆に「唯ちゃん家はいいな。うちなんて木ばかり(造園業の地域)だし、一緒に遊んでくれないから、唯ちゃんのお父さんに「またお宮で遊ぼう」と言つて」と言われ、会社から帰宅したらメモ書きがあり、「友達のお父さんにお父さんとお宮で遊んだ事を書いてた子もいたよ!また、よろしくね」と。

一緒に遊ぶと楽しいのですが、翌日に響く年になってきました。だけど、安心して遊ぶのにも親がいないといけない時代になった気がします。

長崎 修 (特販部)



『子供の夏休みの宿題』



『レーザレーサー』

加藤雅昭 (営業部)

北京オリンピックが終わりました。私は競泳をしているので、やはり気になり水泳競技を見ていました。連覇をした北島や、バタフライの松田、バックの中村等みんな素晴らしい泳ぎをしていたと思いました。このオリンピックのために、自分の命を削るような練習をし、調整をしてきた賜物だと思えます。残念ながら調整がうまくいかなかった人もいましたが、それも4年にたった2度のオリンピックの難しさだと思えます。

それにしてもオリンピック前から騒がれていた水着、スピード社のレーザレーサー。今回のオリンピックでも優勝者のほとんどがこの水着でした。レーザレーサーという生地とレーザレーサーとの組み合わせで、通常縫製するつなぎ目も全て超音波加工です。この水着はほとんど収縮性がありません。そのためのグレートレーザレーサーのみを使用したFS-PRO、これも同じくほとんど収縮がありません。もう一つしたのグレートレーザレーサー、これはレーザレーサーと多少伸びる生地フライイングフッシュでできています。今回のオリンピックで水の怪物といわれたマイケル・フェルプスは自分のサイズより2サイズ小さい物を着用していたようです。でも実際そのレーザレーサーを見てみると、これがOサイズ?と疑いたくなります。

少し競泳をやっている私、買ってみたいと思いましたがどう見てもそれなりにありません。という事で多少収縮があるハイブリットを購入してみました。買う前に友人からフルスーツ(肩から足首までのもの)にしたらいわれましたが、苦しそうなのでスパッツにしました。どう見ても入りそうになり水着を前にして、悪戦苦闘の末やっと穿けました。完全に水着の上におなかを：水着を着た横で娘が歌っています。ポニョ、ポニョポニョお腹ポニョ、メタポの国からやってきた、ポニョ、ポニョポニョポニョふくらんだ、パパのおなかはポニョ、ポニョ、やはりこの水着はもう少しやせてからレースデビューさせてやろうと思えます。

『車を購入しました』

村田恒夫 (総務部)

今年の5月、新車(スカイラインGT)を購入しました。もう少し先に購入する予定でしたが、セフィーロ(13年間乗りました)のエンジントラブルにより買わざるを得なくなり、当初、クラウンマークX、スカイライン、ティアナの4車種で何を購入しようかと迷っていました。4車種から消去法にて最初に脱落したのがクラウン(欲しいけど、やはり高価)、次に脱落したのがマークX(良く見かける)、スカイラインとティアナは、真剣にどちらにしようか悩みました。最終的には知名度でスカイラインを選びました。車種が決まり、次は、ボディカラーでブラック?シルバー?で迷う。ブラックは重量感があって、下取りの値段もよいがホコリ等の汚れが目立ち掃除が大変、逆に、シルバーは汚れが目立たない。ブラックが欲しいが掃除は嫌い。迷いに迷った末にブラックを選んでしまった。この選択が正しかったのか?間違っていたのか?は、半年先かな?又、前車(セフィーロ)にはカーナビが付いていなかったため、方向音痴の私にとつては、カーナビは神様みたいな存在です。ただ、カーナビばかり見て前方不注意で事故を起こしては洒落にもなりません。私が二般道を100キロぐらいで走っていると、何やらサイレンの音がして、サイドミラーを見ると白バイが写っていました(ゴールド免許効果なし!)

今思えば、約30年前に免許を取得した時、欲しかった車がフェアレディZ・スカイラインでした。やっと30年を経て、欲しかった車を購入することが出来たことになりました。